



EXTRA, EXPERT AND EXTREME EXPRESS

2007 VOL.
6



Photo by H.Wakita&Y.Harada(c)

史上初のトップクオリファイ方式予選 徳留和樹がコースレコードでポールポジション!



JSB 1000
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

●予選日:天候/晴れ 路面/ドライ ●決勝コースイン/14:15 スタート/14:30(25周)

JSB1000クラスは、史上初のトップクオリファイ方式で公式予選が行われた。金曜日は、29度まで気温が上がったが、土曜日は、25度と肌寒いほどの陽気となり路面温度も一気に下がった。

トップクオリファイ方式は、まず第1パートでA組、B組上位8台計16台がトップクオリファイに進出することになっていたが、土曜日の朝の公式通知でタイム順での上16番手までがトップクオリファイに進出することに改められていた。しかし、A組の第1パートは、弱い雨が降る中で始まり、すぐに止むという不安定なコンディションだったのに対し、B組は、ほぼドライコンディションでのアタックとなったことから組頭取りでトップクオリファイへの進出が決めることになってしまった。このためA組では、ゼッケン1をつける伊藤真一を始め、TEAM HRCの手島雄介、TSRの辻村猛がトップクオリファイへ進出できない波乱が起きた。また、金曜日にトップタイムをマークし、好調だった酒井大作が第1パートのセッション終了間際にパイパーコーナーで転倒。右の親指、左肩を痛めてしまう。

17番手以下のライダーによって争われたセカンドクオリファイは、セッション開始早々にアクシデントが発生する。手島がヘアピンで転倒し、腰を強打してしまう。そのまま病院で精密検査を受けるが、リザルトでは予選落ちとなってしまい、手島の岡山ラウンドは、この時点で終わってしまう。セカンドクオリファイは、順当に辻村がトップ、伊藤が続き、それぞれ6列目17、18番手グリッドからスタートする。

そして16台によるトップクオリファイが始まった。この20分間のセッションを制し

たのは、徳留だった。徳留は、第1パートでもトップタイムをマーク、トップクオリファイでは予選用タイヤを使い、ただ一人コースレコードを更新。今シーズン2度目のポールポジションを獲得した。「岡山には苦手意識があったけれど、テストからセッティングをあまり変えないで走り込んだのがよかった。金曜日に決勝用タイヤで1分29秒5まで出していたので、予選タイヤでは、もっと出ると思っていたから(予選のタイムは)想定していたタイムです。レースは、とにかくスタートを慎重にいきたい」と徳留。

2番手につけた中須賀克行は、昨年、トップを独走しながらも転倒という苦い思い出がある。「できれば、もう少し気温が上がって欲しい。アベレージはいいのでスタートで前に出てからレース展開を考えようと思う」と中須賀。3番手の柳川明は、決勝朝にニュータイヤを確認してレースに臨むという。「レースはサバイバルレースになると思う。振り返ってみて、ついてきている人たちとのバトルになるだろうね。作戦は全くないですよ。オレの人生みたいにな(笑)」と柳川。4番手の渡辺篤も「調子はメチャクチャいい」と語り、酒井の体調次第では、2戦連続でヨシムラが1-2フィニッシュを決める可能性もあるだろう。

スタートダッシュに定評のある中須賀がレースを引っ張り、徳留、柳川、ヨシムラの2台がレース序盤のトップグループを形成しそうだ。後方から亀谷長純、伊藤などが追いついてくるか? 渡辺と柳川によるタイトル争いの行方にも要注目!

[佐藤 寿宏]

INFORMATION

パドックバス・ピットウォークバスで レースがさらに楽しく、より身近なものに!!



マシンやライダーを「もっと間近に」観たい皆様にオススメなのが、このピットウォーク。各ピット前に並べられたマシンやライダー達に接近できるピットウォークは、レース観戦の醍醐味の一つ。記念写真やサインなど、様々なファンサービスも用意され、きっと思い出に残るでしょう。

※ピットウォークへは、パドックバスとピットウォークバスでご入場いただけます。パドックバス(¥3,000)、ピットウォークバス(¥1,500)は、メインスタンド上の総合インフォメーションで販売しています。

TIME TABLE

※タイムテーブルは、変更されることがあります。

09:55 -	GP-MONO スタート進行(コースイン~選手紹介)
10:10 -	GP-MONO 決勝レース.....10Laps
10:55 -	GP125 スタート進行(コースイン~選手紹介)
11:10 -	GP125 決勝レース.....18Laps
12:05 -	ST600 スタート進行(コースイン~選手紹介)
12:20 -	ST600 決勝レース.....18Laps
13:15 -14:00	ピットウォーク(キッズバイクパレード・スーパーバイクエキスプレランス)
14:15 -	JSB1000 スタート進行(コースイン~選手紹介)
14:30 -	JSB1000 決勝レース.....25Laps
15:35 -	GP250 スタート進行(コースイン~選手紹介)
15:50 -	GP250 決勝レース.....20Laps
※レース終了後~サーキットクルージング	



2番グリッド/ #9 中須賀克行 YSP&PRESTOLレーシング



3番グリッド/ #87 柳川明 TEAM GREEN

ISB 1000 ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP POLE POSITION INTERVIEW



POLE POSITION 徳留 和樹 1'29.273

「昨年もタイムが出ていないし、岡山国際は苦手意識があった。これまで何故か、岡山の前になると自分のテンションを下げる何かが起こってたし、予選もイマイチ。でも、今年はテストで乗ったらすぐタイムを出ることができて、何とか苦手意識もなくそうと走りました。テストで30秒台、金曜日のフリー走行でも29秒台に入っていたので、今回のレコードタイムは想定内の範囲内です。レースはスタートを決めて、自分のペースで走りたい。これまではなかなか接戦から抜け出せず、抜け出しても自分のペースで走れなくて結果を残せなかったけど、今回は違います!タイトル争いは関係ないので、とにかく勝ちにいきたいと思います!!」

1	1'29.273 54 徳留 和樹 CBR1000RR	2	1'29.790 9 中須賀克行 YZF-R1	3	1'30.045 87 柳川 明 ZX-10R
2	1'30.208 76 渡辺 篤 GSX-R1000	5	1'30.277 62 横江 竜司 YZFR1	6	1'30.483 39 酒井 大作 GSX-R1000
3	1'30.505 81 阿部 典史 YZF-R1	8	1'30.602 10 亀谷 長純 CBR1000RR	9	1'30.673 3 山口 辰也 CBR1000RR
4	1'31.046 73 安田 毅史 CBR1000RR	11	1'31.051 75 大崎 誠之 YZF-R1	12	1'31.445 53 今野 由寛 GSX-R1000K7
5	1'32.127 71 津田 一磨 CBR1000RR	14	1'32.955 83 森脇 尚護 CBR1000RR	15	1'34.087 6 奥田 貴哉 CBR1000RR
6	1'35.231 16 清水 秀一 GSX-R1000K7	17	1'31.560 7 辻村 猛 CBR1000RR	18	1'32.236 1 伊藤 真一 CBR1000RR
7	1'32.267 31 東村伊佐三 ZX-10R	20	1'32.472 30 波多野祐樹 GSX-R1000K7	21	1'33.267 64 宇佐見保弘 YZF-R1
8	1'33.349 57 石川 朋之 GSX-R1000	23	1'33.527 58 野崎 浩司 ZX-10R	24	1'33.566 52 民辻 啓 GSX-R1000K7
9	1'33.712 24 河田 庄平 ZX-10R	26	1'33.781 65 竹見 升吾 YZF-R1	27	1'33.926 59 山戸 直樹 ZX-10R
10	1'34.087 96 喜久川 光 GSX-R1000K7	29	1'34.143 23 本田 晃司 GSX-R1000K7	30	1'34.185 21 野寄 真二 CBR1000RR
11	1'34.190 66 安達 光司 YZF-R1	32	1'34.220 85 古川 力也 CBR1000RR	33	1'34.311 25 鈴木 慎吾 CBR1000RR
12	1'34.661 38 原田 洋孝 ZX-10R	35	1'34.736 55 森 皓賢 GSX-R1000K5	36	1'34.957 77 谷 誠士郎 CBR1000RR
13	1'35.204 111 藤本 悦生 GSX-R1000K5	38	1'35.515 33 松井 秀樹 CBR1000RR	39	1'35.579 903 中井 恒和 YZF-R1
14	1'35.892 37 今津 比呂志 ZX-10R				

全日本ロードレース選手権

GP125 youth CUP に注目!

MFJにより、今シーズンはGP125クラスに「GP125 youth CUP」が設けられている。12歳から17歳以下のライダーが対象となっており、登録しているライダーは、下記の8名。成績優秀者はスペインで開催される「MotoGP アカデミー *1」のオーディションに推薦される。

これまで富沢祥也が断トツの強さを見せているが、怪我から復帰した渡辺一馬、後半戦から上位に顔を出すようになった篠崎佐助も、この岡山ではシングルグリッドを獲得している。彼らの活躍に注目しよう。

*1「MotoGP アカデミー」は、ドルナ社が運営する若手ライダー育成プログラム。

ゼッケン	ライダー名	生年月日	チーム
48	富沢 祥也 トミザワ ショウヤ	1990年12月10日	FRS
50	尾野 郡司 オノ グンジ	1991年8月5日	BATTLE & MIHARA RACING
55	渡辺 一馬 ワタナベ カズマ	1990年5月6日	DyDo MiU Racing Team
68	篠崎 佐助 シノザキ サスケ	1993年6月20日	ENDURANCE
71	矢作 雄馬 ヤハギ ユウマ	1990年7月26日	ENDURANCE
72	和田 卓也 ワダ タクヤ	1991年5月19日	チームKOHSAKA
73	山本 剛大 ヤマト タケヒロ	1993年2月26日	CLUB HARC-PRO.
76	尾野 弘樹 オノ ヒロキ	1992年7月15日	BATTLE & MIHARA RACING



【前列】左から、矢作 雄馬、篠崎 佐助、山本 剛大、和田 卓也
【後列】左から、尾野 弘樹、富沢 祥也、渡辺 一馬、尾野 郡司

小西良輝が逃げるか!? 逃がしたくないライバルたち

残り2戦となった全日本ロードレース。ST600クラスは、ポイントランキング上位につけるライダーが今回も予選上位を占めた。ポールポジションを獲得したのは、ただ一人、1分33秒0をマークした小西良輝。これで3連続のポールポジション獲得だ。「ここまでマシンを作ってきた方向性が間違っていないことが確認できた。決勝は接戦になると思うけれど、自分との戦いでもあるので頑張るだけです」と小西。対してポイントリーダーの高橋英倫は、2番手とビタリと小西をマーク。第5戦SUGOからサスペンションを変更してあり、それもプラスに働いているという。「走るたびにマシンはよくなっている。課題はスタート。オープニングラップは特に重要だね。小西さんを逃がさないようにしたい。二人で逃げて最後に勝負できる展開に持ち込みたい」と高橋。暫定ランク2番手の佐藤裕児は、「予選でセッティングを大きく振ったら、いい方向にいった。これなら決勝は戦える」と6番手グリッドからトップを狙う。

岡山がホームコースの寺本幸司は「なかなか足まわりが決まらず、セッティングしながらの予選だったからアタックモードに入れなかった」と語るが、しっかり4番手につけた。5番手の武田雄一も「やっとまともな状態になってきた。決勝は何とかなりますよ」と自信をのぞかせる。

また、今回はビレリユーザーが健闘しているのも注目だ。7番手の黒川武彦、9番手の清水直樹、12番手の浜口俊之が、どのポジションでゴールできるか?

レースは、小西が逃げる展開になりそうだ。小西のベースにどれだけのライダーがついていけるかがカギとなるはず。グリッド2列目までのライダーによる激しいトップ争いが繰り広げられそうだ。

[佐藤 寿宏]



POLE POSITION 小西 良輝 1'33.970

『(前回) SUGOで勝ってから、今年変わったマシンに対して自分がかけてきた方向性でいけると手応えを感じていた。前半戦はマシンに自分が合わせる感じだったけど、今は自分でコントロールできつつある。予選での目標はレコードクリアだったので、ポールポジション獲得とはいえず、悔しい。レースは逃げ切りたいが、思うようにはいかないでしょう。ここまできたら、接戦になった時に、いかに自分をコントロールするか、自分との戦いですね。ひとまずタイトルのことは考えずに、自分のやれることをやるだけです』

ST600

予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	73	小西 良輝	1'33.970	急募.com HARC-PRO.
2	8	高橋 英倫	1'34.407	TEAM GREEN
3	12	野田 弘樹	1'34.441	レーシングチーム ハニービー
4	5	寺本 幸司	1'34.643	Moto Map VEGA
5	88	武田 雄一	1'34.778	Team 桜井ホンダ
6	10	佐藤 裕児	1'34.818	ジュビロ レーシング チーム
7	705	黒川 武彦	1'35.020	松本クリニック中村Egスピード
8	43	生形 秀之	1'35.047	エスバルスドリームレーシング
9	76	清水 直樹	1'35.112	RS-ITOH&KAZE
10	20	岩田 悟	1'35.200	F.C.C.TSR
11	19	鶴田 竜二	1'35.362	TRICK STAR TAMITON-R
12	62	浜口 俊之	1'35.367	BABIE'S RACING
13	69	小林 龍太	1'35.375	バーニングブラッドRT
14	25	東浦 正周	1'35.449	プラスミュージーレーシングチーム
15	51	泉本 真宏	1'35.503	RT仙台森くま&秘湯義々温泉
16	15	稲垣 誠	1'35.571	バーニングブラッドRT
17	55	高橋 江紀	1'35.654	DyDo MIU Racing
18	27	中山真太郎	1'35.733	Kohara RC
19	41	佐竹 隆幸	1'35.941	モリワキクラブ
20	96	光元康次郎	1'36.007	南海部品広島&ウッドストック
21	9	須貝 義行	1'36.087	チームスガイ
22	45	和泉美智夫	1'36.343	ホンダドリーム北九州RT
23	29	津田 拓也	1'36.409	チームOSG&モトスポーツ
24	57	長谷川克憲	1'36.445	SBS磐田
25	16	大石 正彦	1'36.553	伊藤RACING・GMDスズカ
26	44	見玉 勇太	1'36.660	DBOYS Racing
27	64	田中憲史郎	1'36.757	ベガススポーツ Z-TECH
28	54	井上 哲信	1'36.785	TRICK STAR TAMITON-R
29	33	中島 大輔	1'36.837	アンビシャス LUMIX レーシング
30	31	西野 大輔	1'36.859	DRTレイステックOSデザイン
31	66	木本 康隆	1'36.892	木原電装withRSC
32	48	戸田 義弘	1'36.945	wins ルートカーゴ RT
33	99	高杉奈緒子	1'36.967	レーシングチーム ハニービー
34	47	山崎 茂	1'36.972	グリーンクラブ&山科カワサキ
35	39	松本 正幸	1'37.070	モトドリームGTマチュアリー
36	89	須磨 貞仁	1'37.168	ホンダドリーム北九州RT
37	91	シルバダニエル	1'37.267	ケッツトラストレーシング
38	40	谷 正明	1'37.702	WEST POWER&AW谷屋
39	82	岐島 大輔	1'37.714	Carubi TSR
40	77	小田 茂昇	1'37.883	ホンダショップナガノR-T

岩田裕臣がコースレコードを更新し今季2度目のP.P.をゲット!

前日のA.R.T.合同走行でトップタイムを出し、好調な滑り出しを見せていた岩田裕臣が予選でも順調にタイムを削り、1分36秒150でコースレコードを更新。今季2度目のポールポジションを獲得した。

「合同走行の段階でポールが取れる感触はありました。レコードを狙っていたわけではないが、予選は気温が下がり、コンディションが良かったのでタイムが上がった」という岩田。予選終了間際に降り出した雨には「早いうちにタイムを出していたので、運も良かったですね」。ポイントリーダーの岩田に、天候も味方したようだ。

徳留真紀はタイムアタック中に雨が降り出したため2番手のタイムにとどまったが、岩田とのタイム差は僅か0.153秒。3番手の富沢祥也までが1分36秒台で、4番手以下を大きく引き離している。

決勝はこの3台にベテランの井手敏男が加わり、トップグループを形成する可能性が高い。岩田も「レースは混戦になると思う」と語っている。チャンピオンに王手をかけたい岩田と、それを阻止したい徳留の直接対決がこのクラス最大の見所だろう。

第2グループの台風の目となりそうなのは、youth CUPにエントリーしている14歳の篠崎佐助だ。自己最高の8番手グリッドを獲得しており、ここ岡山でのストレートスピードは上位陣に引けを取らない。スタートで前に出ることができれば、上位でチェッカーを受けるチャンスがありそうだ。

前戦のSUGO大会を欠場していた渡辺一馬は怪我から復帰。今季、岡山を走るのはこのレースウィークが初だが、5番手のタイムを叩き出しており、決勝での活躍に期待がかかる。スポットで参戦している地元出身の花房一樹も7番手と好調。地の利を活かして上位入賞を狙っている。

[藤根 ゆかり]



POLE POSITION 岩田 裕臣 1'36.150

「岡山国際では2回事前テストをして、タイムは出ていないが、感触は悪くなかったです。今、メカニックを藤岡(祐三)さんにやっていただいているんですが、藤岡さんのタイムを抜くつもりで走っていました。結果はレコードでポールポジションを獲得できましたが、明日は集団の混戦になると思うので、レースでは自分を落ち着かせて、前の方でゴールできればいいですね。タイトル争いは経験がないので、レース運びの方法が今ひとつわかりませんが、ころばないように走ります!」

GP125

予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	6	岩田 裕臣	1'36.150R	TEAM PLUS ONE
2	11	徳留 真紀	1'36.303	TEC.2&Feel
3	48	富沢 祥也	1'36.732	TeamProjectμFRS
4	5	井手 敏男	1'37.675	Feel&TEC.2
5	55	渡辺 一馬	1'37.717	DyDo MIU Racing
6	8	山本 武宏	1'37.725	チームAMARINEコスモス+G
7	17	花房 一樹	1'37.781	TEAM FORS SEJ
8	68	篠崎 佐助	1'37.818	ENDURANCE&橋川塾
9	4	菊池 寛幸	1'37.821	BATTLE&ミハラレーシング
10	13	山田 亮太	1'37.880	TEAM PLUS ONE
11	10	仲城 英幸	1'37.896	TEAM ASPIRATION
12	100	葛原 大陽	1'37.988	バーニングブラッドRT
13	46	日浦大治朗	1'38.074	Team NOBBY
14	65	船田 英生	1'38.124	チーム ウィリアム
15	3	竹内 吉弘	1'38.281	RP馬行&YUE&Promathic-I
16	71	矢作 雄馬	1'38.327	橋川塾&ENDURANCE
17	7	井上 誠	1'38.371	BATTLE&ミハラレーシング
18	15	浪平 伊織	1'38.377	Honda鈴鹿レーシングチーム
19	25	古市 右京	1'38.380	TEAM ASPIRATION
20	27	天野 邦博	1'38.469	ホンダ狭山レーシングチーム
21	61	柳沢 祐一	1'38.479	18 GARAGE RACING TEAM
22	76	尾野 弘樹	1'38.485	BATTLE&ミハラレーシング
23	72	田中 卓也	1'38.598	チーム KOHSAKA
24	14	東 幸寛	1'38.797	RISKY+ホワイトレーシング
25	24	水野那由太	1'38.814	TEC.2&Feel
26	82	山内 陸史	1'38.859	レインボーキフト&YUE
27	19	大石 義次	1'38.877	TEC.2&Feel
28	77	今中 満	1'38.943	RISKY+ホワイトレーシング
29	70	福島 宏幸	1'39.074	RISKY+ホワイトレーシング
30	23	中村 貴紀	1'39.122	Team Life
31	31	加藤 雄資	1'39.176	TEAM JOKEJOY
32	54	藤塚 洋介	1'39.197	丸竹 TEAMFOR SEJ
33	74	鎌田 悟	1'39.294	KTR&ENDURANCE.+OSL
34	73	山本 剛大	1'39.312	CLUB HARC-PRO.
35	34	村田 憲彦	1'39.323	CLUB Y's
36	18	国吉 基寛	1'39.400	SIMFレーシング MKN
37	21	長谷川 稔	1'39.480	RISKY+ホワイトレーシング
38	50	尾野 晋司	1'39.539	BATTLE&ミハラレーシング
39	56	三浦 篤明	1'39.751	TEAM T&T
40	64	飯原 洋	1'39.886	チームKOHSAKA高橋商会

高橋巧が宇井陽一にストップをかけるか!?

今シーズン、圧倒的な強さでポイントランキングをリードしている宇井陽一だが、今回の予選は、今一つ気分が乗らなかったという。前戦SUGOは、ポールポジションを獲得しながら、タイムスケジュールが押したためレースが中止となる前代未聞の事態だった。予選順位でハーフポイントという結果となり、本来なら勝って、ポイント差をつけて今回の岡山でチャンピオンを決めたかったはず。だが、ここにきて高橋巧が好調だ。予選では早い段階で1分32秒台に突入。徐々にタイムを削りポールポジションを獲得した。

「調子はメチャクチャいいですよ。スタートをうまく決めて宇井さんに勝ちたいですね」と高橋。一方、宇井は、ラスト5分でタイムアタックに入るが、最後のアタック中に遅いライダーに引っかかってしまい2番手に甘んじた。「今日は車体のトラブルが発覚した。最後にアタックしたけれど届かなかったね。明日の朝にソフト目のタイヤを試して勝負しようと思う。まあ残り2戦、自分の最低限の目標であるチャンピオンになるために頑張るよ」と、あくまで勝ちにこだわるのではなく、チャンピオンになることを優先するようだ。ただ、現状では高橋と宇井が抜き合っており、二人の一騎打ちとなる可能性が高い。

3番手の及川誠人は、「フロントフォークを変えたら、ずっと抱えていた問題が解決した。決勝はトップ争いに絡んでいきたい」とやっとな勝負できる状態になってきたようだ。また、GP125とダブルエントリーしている富沢祥也は、事前テストなどで金曜日に初めてGP250を岡山で走らせたという。スタートさえ決まれば、引っ張られるようにトップ争いに加わってくるはず。急成長を見せる。山崎郡、濱本裕基、インドネシアンライダーのドニ・タタ・プラディタなども注目だ。

[佐藤 寿宏]



POLE POSITION 高橋 巧 1'32.348

「去年はここでいいタイムが出せなかった。今回は金曜日からセッティングが決まって、自分で変えなくてもタイムが出せるようになった。予選の前にちょっとセッティングを変えたら逆方向へ行ってしまうので、修正しながら予選を走り、最後にはなんとかタイムを出すことができました。でも、1分31秒台を出したかったですね。ポールポジションからスタートできればチャンスは増える。決勝はスタートを失敗しなければ優勝も見えてくると思う。調子いいので、宇井さんに負けないように頑張りたい」

GP250

予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	4	高橋 巧	1'32.348	バーニングブラッドRT
2	41	宇井 陽一	1'32.621	MALLOSSI/spruce&PT
3	5	及川 誠人	1'33.127	ウィルアクセス&プラスミー
4	56	山崎 郡	1'33.620	HITMAN RC甲子園ヤマハ
5	7	濱本 裕基	1'33.675	TEC2&Feel.九州共立大学
6	45	Doni Tata Pradita	1'34.263	ヤマハINDONESIA RT
7	93	遠藤 卓実	1'34.313	PRO-TEC&新潟工業短大
8	16	櫻井 大幸	1'34.354	KEIHIN Kohara.R.T.
9	8	秋田 貴志	1'34.364	HenkelTDRYAMAHA
10	48	富沢 祥也	1'34.565	TeamProjectuFRS
11	6	秋谷 守	1'34.910	チーム モトスペース
12	19	伊藤 勇樹	1'35.004	DOG FIGHT RACING
13	14	及川 玲	1'35.034	ベントグラム&藤岡&M-Ra
14	46	瀬崎 恭広	1'35.353	カメイレーシング&チーム万代
15	92	國川 浩道	1'35.418	SP忠男レーシングチーム
16	62	中本 都	1'35.736	RT-OUTRUN
17	20	岩井 耕治	1'35.800	GBS+NRProject
18	810	大西 明	1'35.995	大阪SAM.RT.Ys'F
19	31	渡辺 一樹	1'36.021	TDR
20	65	二瓶 彰	1'36.198	SP-V&寿レーシング
21	26	柴原 誠	1'36.291	TeamDankeRacing
22	25	福山 京太	1'36.361	TeamDankeRacing
23	34	小口 理	1'36.570	ALLMAN&OW小口齒科
24	72	木村 旭厚	1'36.641	PRO-TEC日大工学部機械研
25	36	弓場 誠	1'36.746	チームカナヤ
26	35	大岡 友明	1'37.209	チームカナヤ
27	47	小口 亘	1'37.974	ALLMAN&OWRACING
28	38	久保山正明	1'38.624	ホンダ浜友会 浜松エスカルゴ
29	33	大城 光	1'38.805	Oshiro R・金田工業株
30	37	風呂本 真	1'40.009	ドッグファイトR+バイクPIT

中木亮輔が強さを発揮!! 今季3度目のポールtoウインを目指す

中木亮輔が岡山の予選でも断トツの速さを見せつけた。今季出場したレースはもてぎで2位、筑波で優勝、SUGOも優勝と、全て表彰台を獲得している中木。岡山を走ったのは「スポーツ走行に一度参加しただけ」と言うが、その時点ですでにコースレコードを上回るタイムを出していた。

しかし、中木はA.R.T.合同走行ではトップタイムを保持したもののベストタイムが1分41秒562と、思うようにタイムを上げることができない。それでも「エンジンの調子がよくない」のをライディングでカバーし、予選では1分40秒111をマーク。これまでのコースレコードをコンマ7秒以上縮め、堂々のポールポジションを獲得した。

予選2番手につけたのは乃村康友。1分40秒801と、こちらもこれまでのコースレコードを上回るタイムだった。現在ランキングトップに立っている森隆嘉は3番手で、フロントウイングをしっかりとキープしている。

森が61、小室旭が60、中木が57と、ランキング上位の3名のポイントは僅差。ここ岡山での優勝が、最終戦までもつれ込むチャンピオン争いに有利なのは言うまでもない。

予選では強さをしっかりと見せつけた格好の中木だが、不安要素が消えたわけではない。5番手グリッドからスタートするライバル、小室は「中木君が出したタイムは自分でも想定していたタイム。金曜日に転倒してしまったことが僕が一步遅れてしまった原因。決勝ではきっちり中木君とやりあって、勝ちにいきたい」と闘志を燃やしている。

ハイレベルなレースが展開されている今シーズンのGP-MONOクラス。最終戦を目前に、この岡山で熱いバトルが繰り広げられそうだ。

[藤根 ゆかり]



POLE POSITION 中木 亮輔 1'40.111

『岡山国際は、事前に一日だけスポーツ走行で走りました。(地元)宮城からは遠いですがね。でも、その一回でレコードタイムを出していたので、今回の予選では、そこからさらに1秒は縮めたいな、と考えていました。しかし、エンジンの調子が悪くて、ストレートではまったく抜けない状態。だから、とにかくコーナーで頑張るしかなかった。予選タイムはクリアラップが取れていたわけではないので、決勝ではさらにタイムは伸びるでしょう。決勝では森、小室、乃村の各選手たちもガンガン来て逃げ切れるかどうか分かりませんが、タイヤもいいのを見つけたので、何とか勝ちたいですね』

GP-MONO

予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	42	中木 亮輔	1'40.111	MIRACLE POWER R
2	83	乃村 康友	1'40.801	モリワキクラブ
3	2	森 隆嘉	1'41.188	TEAM PLUS ONE
4	73	山本 晃大	1'41.394	CLUB HARC-PRO.
5	56	小室 旭	1'41.401	TeamProjectuFRS
6	1	山下 祐	1'41.494	ZBユビクツR+PLUSONE
7	3	岡田 義浩	1'41.678	MRFプロマチックアイ&LJ
8	5	古川 真一	1'41.784	チームライディングスポーツ
9	46	星野 知也	1'41.858	エスバルドリームレーンジャー
10	9	阿部 徹郎	1'41.873	あべスピ・ヤマハ&セルホーム
11	48	日浦 徹	1'42.112	モリワキクラブ
12	33	安村 武志	1'42.371	チーム テック-2
13	41	谷川 壮洋	1'42.521	Team Plus One
14	47	矢野 大輔	1'42.546	チーム リトルウイング
15	51	伊藤 公一	1'42.711	TEAM SEJ FORS
16	17	松永 直人	1'42.998	アゲインレーシングクラブ
17	68	中村 公彦	1'43.430	IS-P.CC/ブリミティブR
18	30	三好 菜摘	1'43.686	パワーハイブレーシング
19	45	小川 範祥	1'43.723	広島カジャレーシング
20	52	小畑 仁	1'43.896	MOTO WIN RACING
21	23	小川 隆浩	1'43.904	18 GARAGE RACING TEAM
22	20	江崎屋 学	1'44.016	IS-P.CC/ブリミティブR
23	88	植田 智広	1'44.134	Team Life
24	31	高瀬 敬次	1'44.136	マックウェスタン KSL
25	15	永田 正己	1'44.195	TW's&RAVE-ON+ZB
26	43	山田 俊樹	1'44.302	バーニングブラッドRT
27	4	赤岡 清	1'44.402	CLUB HARC-PRO
28	13	岳 崇一	1'44.472	Teamイズミ&アイテック
29	66	福垣 徹	1'44.483	バーニングJr.アクセススピード
30	40	宮原 綾	1'44.636	広島カジャR&クスタニ広島店
31	29	斎藤 幸大	1'44.676	パワーハイブレーシング+MRF
32	49	橋元 晃一	1'44.680	Garage130R&FUSE
33	64	土井 隆成	1'44.710	TYPE-D Racing
34	19	法月多嘉夫	1'44.928	M・A・R-S elf
35	10	平石 理	1'44.936	レーシングチーム ハニービー
36	82	古賀 嗣郎	1'45.229	TeamSH2
37	44	上村 秀範	1'45.427	FireGarage+130R
38	37	伊藤 淳	1'45.474	MRF&RH松島
39	36	笹崎 明仁	1'45.566	Garage130R&FUSE
40	39	福岡 大吾	1'45.568	M・A・R-S